議事内容(案)およびメモ（20160524, 101A, 参加 22 名）
参加者：22 名
大谷栄治（委員長、東北大学），西山忠男（副委員長、熊本大学），木村純一（幹事、JAMSTEC），道林克禎（静岡大学），片山郁夫（広島大学），吉田茂生（九州大学），大久保修平（東京大学），河上哲生（京都大学），サティッシュ・クマール（新潟大学），森下知晃（金沢大学），成瀬　元（京都大学），田所敬一（名古屋大学），日置幸介（北海道大学），佐野有司（東京大学），川勝　均（東京大学），入船徹男（愛媛大学），鍵　裕之（東京大学），サイモン・ウォリス（名古屋大学），岩森　光（JAMSTEC），福田洋一（京都大学），川本竜彦（京都大学），松澤　聡（東北大学）

報告および審議事項
1. 社員総会・理事会報告　代表理事　会長　川幡 穂高　：副会長　中村 正人・田近 英一・古村 孝志
報告：大谷
2. プログラム委員会報告
田中（別紙，大谷代読）：重複回避の希望が正確でなく困った.
3. ハイライト選出報告
田中（別紙，大谷代読）：ハイライト論文の検討過程．コンビーナーから推薦していただき，プログラム委員が選択．SSB で 8 件を承認した．SSB から委員会にハイライト数を増加するようにお願いし，10 件程度まで増やすことが承認された.
4. FG SEDI 報告
田中（別紙，大谷代読）：MRP-SEDI よりの報告.
5. SSB メンバーの確認
22 名出席，参加者全員継続了解．分野が足りない場合は，推薦をお願いします.
6. 次期執行部の検討
2 年間は大谷委員長継続．副委員長と幹事改選．自薦他薦なし．もしあれば，大谷宛に連絡請う．現執行部で検討を進める．結果はメールベースで連絡し決定する．およそ 1 ヶ月で決定の予定．以上の過程で改選することが了承された.
7. 2017 年 AGU とのジョイント大会について
大谷報告．2016 年 AGU とのジョイントセッション（JS）について SSB では 19 セッションが実現．JS について SSB から旅費のサポートを行った．19 セッションで本部サポート 5 万円（コンビーナによる自由裁量経費）＋旅費 10 万円．SSB ボードから問い合わせの結果サポートを実施した．辞退もあり予算は 82 万円があまり再配分した．　7 セッションには最大 24 万円を配分した．来年もこの方法で配分を実施する事が了承された．事務的には JpGU 事務局が対応したので，大きな問題はなかった.

2017 年は AGU との Joint Meeting になるので，引き続き AGU との窓口対応をお願いしたい（別紙エクセル資料参照）．本年に加えてさらに人数を増やすことができるので，希望者は加わっていただきたい．

質疑：ジョイントミーティングはどのようにオーソライズされるのか？プログラムは冒頭で提案し，合同プログラム委員会で検討し，決定される．セッション申請については日本側から，米国側から，双方からのグループで提案可能．AGU との窓口からは 5 名が出てくる（AGU はセクション・フォーカスグループについて合計 27 のグループがある）

質疑：プログラム委員会はどうなる？11 月 10-12 日に AGU-JpGU で合同のプログラム委員会が実施される．日本から５名，米国で５名．コンビーナーには問い合わせをしない．事前打ち合わせをするかどうかはこれからの相談（おそらくそうなる）．9 月にセッション提案開始．基本的にはオープンアプリケション．

プログラム委員：仕事はセッションの選択，セクション内の帯案の作成，全分野の帯案の完成．オーバーラップは避けがたい．コンビーナーには戻さない．後日，事務局から個別に委嘱お願いする．

8. セクション内部構造（FG）について：

大谷報告：SSB 小委員会について，学会単位でなく広い領域の内部構造となるフォーカスグループをつくりたい．提案はないか？SSB を活用するような組織．たとえば大型研究に対応したグループ．

入船：あったほうがよい

大谷：「火山・地震・掘削」，「ミューオン」，「高圧」，「地球化学同位体分析」がある．それらの情報交換の場として利活用．次回の大型研究の提案は大改訂となる。内部構造としてのフォーカスグループには SSB として会議費として予算支援はできる．全体で 50 万円程度．新学術なども．基本は 2 年で次元があるが，継続も SSB で審議ののち可．

SEDI について継続の申請があり，承認された．

質問（道林）：承認については？（大谷）随時メールベースで作ることができる．

9. セクションの褒章について

継続審議：どうやって決定するか？審査が大変そう．他のセクションでは未だない．全体としては西田賞がある．全体としてもまだ新しい提案はない．

学生賞について：審査数が多すぎる．DC に限定したらどうか？とくに学部生について．今年 344 名，昨年 290 名からそろそろ審査が限界．コンビーナーに審査員を義務化するか，あるいは DC に限定するか．

岩森：プログラム編成について，内容が重複するセッションが多くなっている．（大西）昨年統合したところ，反発が多くセッションを統合しても交流が進むかどうかは疑問な例がある．コンビーナーにきちんと対応してもらう事を努力する．

川勝：フェローなど懸賞の推薦をプロモートするフェローノミネーションコミティーのようなものを作ったらどうか？ボードメンバーが主体になってつくる？（大谷）今後作ることを考えてみる.

西山：プログラム委員会：九州大学に関係者が多数いるので，九州大学で相談いただけないか？（吉田）検討することになった.

以上.